



まちの話題

話題・情報は企画課へ
お寄せください。



八東ふるりの森 「サステナブルな旅アワード」 地域未来賞を受賞

地域の文化や自然、暮らしを次世代へつなぐ「持続可能な観光地域づくり」の推進を目的に、観光庁が実施する「サステナブルな旅アワード」において、このたび八東ふるりの森の取組が「地域未来賞」を受賞し、3月28日（土）に公立鳥取環境大学で受賞報告会が行われました。

会では、今回受賞した「季節ごとに里山の自然を探索するシリーズ」について概要説明が行われました。

八東ふるりの森の指定管理者である（株）エルボスケの目下代表は、「世界に誇れるふるりの森の生物多様性を多くの方に知っていただき、森での探究活動を楽しんでもらうことで、地域資源を活用し、持続可能なまちづくりに貢献していきたい」と話しました。



記念撮影を行った（株）エルボスケ目下代表（前列左から2）、平井鳥取県知事（前列右から2）、吉田町長（前列中央）ほか関係者

やずPのデモ実施 郡家駅周辺で利便性を確認

町内の加盟店で食品や日用品の購入に使えるデジタルポイント「やずP」のデモンストレーションが、3月25日（水）に郡家駅周辺で行われました。

当日は、吉田町長や関係者がスマートフォンや今後配布予定の専用カードを使い、利便性を確認しました。

「やずP」は山陰合同銀行のアプリ「さんいんウォレット」や専用カードに付与され、200円の買い物につき1ポイント（1円相当）として利用できます。

今後は、5月にアプリの先行ダウンロードを開始し、7月に専用カードを配布、8月2日から本格運用を開始する予定です。北村会長は「地元での利用を促進するとともに、将来的には交流人口の拡大につなげていきたい」と話していました。



専用カードを電子機器にかざす北村会長

町内小・中学校で入学式 期待胸に新たな一歩

新年度が始まり、4月10日（金）に町内5つの小・中学校で入学式が行われました。

このうち八頭中学校では、134人の新入生を迎え、令和8年度第12回入学式が執り行われました。

新入生は、今年度から導入されたユニバーサルデザインの新制服や、譲り受けたこれまでの制服を着用するなど、それぞれの個性を大切にされた姿が見られました。

式では、表校長が「3年間を通して主体的に学ぶ八頭中生として成長してほしい」と新入生にエールを送り、新入生代表の木村さんが「部活動や幅広い学習に期待で胸がいっぱい。充実した中学校生活を送れるよう頑張りたい」と誓いの言葉を述べました。



八頭中学校の玄関で記念撮影をする新1年生

八頭町上下水道運営審議会が答申書を提出

八頭町上下水道運営審議会は4月10日(金)、簡易水道料金と下水道使用料の見直しに関する答申書を町に提出しました。

同審議会は町の諮問を受け、令和7年度に計6回の会合を開催し、簡易水道事業と下水道事業の現状や今後の経営見通しを踏まえ、適正な料金のあり方について検討を重ねてきました。

今後、町では答申内容を踏まえ、簡易水道事業および下水道事業の安定した運営に向けた検討を進めていきます。

なお、答申内容の詳細については、来月号の広報「やす」などでお知らせします。



答申書を町長に手渡す八頭町上下水道運営審議会
北村会長(中央)と西村職務代理者(左)

【答申の主な内容】

■簡易水道

・ 現行の料金を据え置きとします。

■下水道

- ・ 一般家庭の料金体系(人数制)を、従量制へ変更することとします。
- ・ 基本料金を4%、超過料金を6%引き上げとします。
- ・ 井戸水や村水などを利用し使用水量の算定が困難な場合は、世帯人数に応じた認定水量で算定することとします。
- ・ 使用料の改定時期は令和9年度とします。



郡家浄化センター



久能寺 第二水源地

きんらり やすっとく

地域と農地を未来へつなぐ 下町水士里会の挑戦

地域の農地や自然を守りながら、新しい農業のかたちに挑戦している下町水士里(みどり)会。高齢化が進む中、農地や農業施設の維持、自然環境の保全を目的に設立され、非農家や団体も巻き込みながら、地域ぐるみで農村コミュニティづくりを進めてきました。

同会は、令和元年から有機農業にも力を入れ、家畜ふんたい肥やバイオマス発電の消化液を活用した環境にやさしい農業を実践しています。収穫された農産物は学校給食などにも活用され、令和6年には約4ヘクタールで720万円の売上を達成しました。



高齢者との交流会で作業を一緒に楽しみました

同会が管理する有機栽培の田んぼにはコウノトリが飛来するなど、生きものが戻りつつあるのも大きな特徴です。さらに農業体験を通じて、高齢者や障がいのある子どもたちとの交流も生まれ、多様性を大切にした地域づくりにもつながっています。こうした取組が評価され、令和7年度には農林水産省が地域の活性化や所得向上に取り組む優良事例として選定する「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選ばれました。

鎌谷会長は「農業は集落があつてこそ成り立つもの。農地と暮らしを守るため、これからもみんなで知恵を出し合いながら、持続可能な農業に取り組んでいきたい」と話しました。



県知事を訪問し、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」受賞を報告